【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	山　口　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	光市立島田中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	４	３	４	１	１２	２５
生徒数	１１２	１０５	１４１	５	３６３	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

学びにドラマを創り出す
（副題）わかる喜びや創る楽しさを実感できる授業展開の工夫　　（二年次）

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

＊　全教科で「個に応じたきめ細かな指導」に取り組む。
ただし、中心となるのは少人数指導を実施している数学科である。

１年生・数学
小学校から数学に苦手意識をもっている生徒が多く、生徒の理解度に差が出やすい教科であるため。
３年生・数学
習熟度に差が出やすい教科、学年であるため。

(2)　年次ごとの計画

平成14年度

○　テーマ
①　数学・英語を中心とした必修教科の授業におけるきめ細かな指導の実施
②　ゆとりの時間（ＲＴ）における運用の可能性の研究
③　各研究部会の研究推進

○　研究の見通し（仮説）
わかる喜びや創る楽しさを実感できる授業を仕組むことで、確かな学力を身に付け、豊かな心を育てることができるであろう。

○　研究の内容・方法
テーマ①については「学びにドラマを創り出す研究（導入にドラマを創り出す）」及び「評価を学力向上のために生かす研究」の２点を具体的な研究内容として取り組んだ。
「学びのドラマ」は「確かな学力」と「豊かな心」に支えられて実現するものである。そこで、数学・英語を中心とした必修教科において生徒一人一人が「わかる喜び」を体得し、意欲的、主体的に学習に取り組めるきめ細かな指導のあり方を研究することとした。
その際、次の５つの視点、「わかる喜び」「創る楽しさ」「ふれあう温もり」「達成する充実」「尽くすやさしさ」を踏まえて授業を構想し展開していくこととした。
数学科においては、少人数指導の形態として、次の３つの形態【Ａ・Ｂ・Ｃ】を考えており、昨年度より実施している。

A	通常は機械的に２つのクラスに分けて実施する。 単元のまとめの段階で習熟度別授業を行う。
B	すべての時間において習熟度別授業を行う。
C	通常はＴＴによる一斉指導を行う。単元のまとめにおいて習熟度別授業を行う。

第１学年においては指導形態Ｃで、第３学年においては１章は指導形態Ａで行い、それ以降はすべて指導形態Ｂで行っている。どの学年においても、コース別の学習内容説明等のガイダンスを単元ごとに行っており生徒がコースを選択する際のヒントにもなっている。

英語科においては第３学年において週１時間、１，２年生の復習を中心に「基礎」と「発展」のコース別による少人数指導を行っている。

また、学習意欲を高め、学力の定着・向上に生きる評価方法並びに評価を指導に生かすための研修も併せて行っている。学期ごとに著名な講師を招聘し、教職員の指導力向上のための計画的な研修も進めてきた。

テーマ②については、日課に組み入れていない水曜日の午後の時間を、ＲＴ「レインボータイム（虹）」として、その運用の可能性を探る研究を進めた。ＲＴにおいては、学力補充や生徒会活動あるいは各行事など、ゆとりがあり豊かな学校生活のための時間として弾力的に運用をしている。このＲＴタイムは本校の大きな特色であると考えている。

さて、本校の研究主題に迫るためには、教職員全体として取り組む体制づくりが何よりも必要である。そのための研究組織として３つの研究部会を設定した。すなわち「学力向上フロンティア部」「心すこやか育成部」「学校いきいきプラン推進部」の３部会である。

テーマ③については、数学・英語を中心としたきめ細かな指導の研究は「学力向上フロンティア部」、ＲＴにおける学力定着の実践研究は「学校いきいきプラン推進部」、道徳の授業研究を通しての「豊かな心」を育む研究は「心すこやか育成部」それぞれで行っている。毎学期ごとに各研究部会による授業研究や各部会からの提案、長期休業中の１日研修などの実践を行ってきた。

平成15年度

○　テーマ

①　必修教科及び選択教科の時間におけるきめ細かな指導の実施
②　ゆとりの時間（ＲＴ）における運用の定着化
③　ラーニングルームの活用および長期休業中における質問日の設置
④　各３部会の提案をもとにした、全教職員で取り組む研究の推進

○　研究の見通し（仮説）

授業時間はもちろんのこと学校の教育活動全体で生徒一人一人に応じた学びの機会の充実を図ることで確かな学力が向上するであろう。

○　研究の内容・方法

テーマ①については、「わかる喜び」や「創る楽しさ」を実感させる指導の工夫を通して「確かな学力」を育成する。そのために各教科で「きめ細かな指導」の視点を明確にし、授業改善を中核に研究を進めてきた。

数学科においては平成１３年度から実施してきた少人数指導を継続している。つまり、１年生においては全時間ＴＴによる一斉指導を行い、単元のまとめにおいて習熟度別授業を実施、３年生においては、全時間習熟度別授業を実施してきた。基本的に、各単元すべての時間を生徒の選択で「基礎」と「発展」の二つのクラスに分けて実施している。過去２年間の少人数指導の実践をもとに、よりよい少人数指導をめざしてきた。

配慮している点としては

・個々の生徒に応じた学習活動ができるような指導計画の工夫
　（基礎コースにおける復習の重視及び発展コースにおける発展的課題の設定）
・各コースごとの難易度の設定
　（過去２年間の経験をもとにした課題設定）

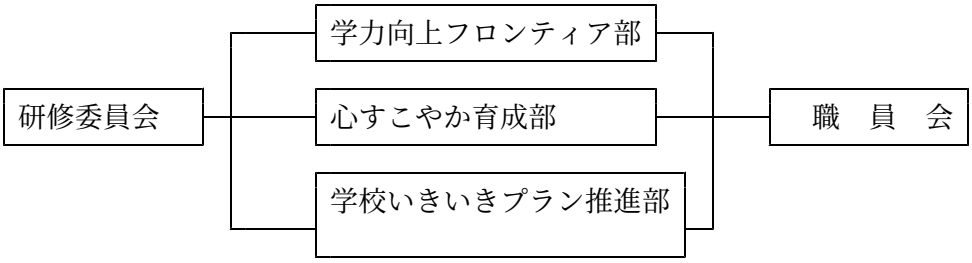
・コース選択の参考となるようなレディネス問題の実施

・自己決定力を育てる自己選択制（単元ごとに選択）
・どちらのコースを選択しても不利が出ないような評価方法の工夫
などがあげられる。
　今年度は、数学科だけでなく全教科において授業改善に取り組んできた。全体の研修会だけでなく、だれもが一度は研究授業を行うことを進めている。
　今年度は１年生においても、国語、数学、社会、理科、英語の５教科を選択教科として開設した。３年選択社会では課題別コースを、３年選択数学では「基礎」と「発展」のコース選択授業を、生徒の興味・実態に応じて実施した。選択数学の基礎コースでは、基礎・基本の定着をめざし、今年度から導入した自学自習に役立つドリル形式の学習履歴型教育ソフト「ラインズｅライブラリ」を利用した個別対応学習を試みた。生徒には大変好評で、数学を苦手とする生徒も意欲的に取り組んだ。
　また、各選択教科の時間に「英語検定」「数学検定」「歴史検定」「漢字検定」などの各検定試験に向けての学習を進めている。選択教科として取り組むだけではなく、検定試験にチャレンジしようとする生徒も増え、多くの生徒が資格を取得している。
　テーマ②については、２年目ということもあり、ゆとりの時間（ＲＴ）の運用もしっかりと定着してきた。「ＲＴ」における基礎学力向上のための方策として、昨年度は英単語・英熟語の学習を進めたが今年度は漢字の読み書きも併せて行ってきた。「漢字マラソン」「英単語マラソン」と称して、全校一斉に取り組み、成果を記録していくことで、知識を高めるだけでなく学ぶ意欲の向上にもつながっている。
　テーマ③についても実施の２年目であり、ラーニングルームの利用も日常のものとなっている。長期休業中にはこのラーニングルームを生徒の自主学習の場として開放している。この夏休みには２４日間ラーニングルームを開放し、そのうち１４日間を質問日学習として設定した。冬休みには５日間の質問日学習を実施した。実施の際には対応できる教科や時間をあらかじめ生徒や保護者にも知らせ、生徒が質問しやすいよう工夫している。
　テーマ④については、研究３部会のテーマに基づいた実践を進めるとともに、授業実践をお互いに公開することで研修を進めてきた。たとえば、「学力向上フロンティア部」からは「授業改善に向けての重点課題」の提案が、「心すこやか育成部」からは「道徳による校内授業研修会のもち方」や「思いやりの心を育てる参観日のもち方」の提案がなされた。また、「学校いきいきプラン推進部」からは「平成１５年度の総合的な学習のトータルプラン」の提案や「ＲＴ」の企画・立案がなされた。

平成16年度	○　テーマ ①　必修教科および選択教科の時間における個に応じたきめ細かな指導の実施およびさらなるきめ細かな指導の可能性の追求 ②　ゆとりの時間（ＲＴ）の拡大 ③　ラーニングルームの活用や質問日学習の設置などによる学習環境の整備・充実 ④　各研究部会の提案をもとにした、全教職員で取り組む研究の推進 ⑤　研究成果の検証 ○　研究の見通し 　生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導による「確かな学力」が身に付けば「学びのドラマ」が実現できるであろう。 ○　研究の内容・方法 　「学びにドラマを創り出す」研究および「評価を学力向上にいかす」研究の仕上げを行う。その中核はやはり授業改善であると考える。 　ＲＴにおける基礎学力向上のための時間の運用においては２年間の実践をもとによりよい実施の方法を追求していく。また、ラーニングルームにおける機会をとらえての個別指導の充実や長期休業中の質問日学習の定着化も図る。研究３年目であり、成果の検証を具体的に進めていかなければならない。そのためにも評価の工夫および評価結果を役立てる工夫も併せて行う。

(3)　研究推進体制

実践研究組織図



上記３部会いずれかの部に全教員が所属する。

工夫点としては、各研究部がテーマをもち、職員会で提案を行い全員が実践するという形をとっていることである。とかくトップダウン的な形になりやすい研修体制を、各部が主体性をもって取り組むことで研修が活性化したものとなった。

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

①　数学科における習熟度別指導においてはアンケート結果を見ても９８％の生徒がコース別授業を歓迎している。また、自分が選んだコースにおける学習がよかったと答えた生徒は８３％であり、習熟度別指導が個に応じた指導の一つとして有効であるとの確かな手応えを感じている。

　また、習熟度別指導を行っていない教科においても「個に応じたきめ細かな指導」の工夫改善を行ってきた。全教科で「きめ細かな指導の視点」を提示し合い、互いに授業改善を図る中で、一人一人の生徒を大切にするという生徒支援の共通の意識がもてたことも成果の一つである。

　数年前は各種検定試験を受ける生徒はごく一部であったが、選択教科の時間にも取り入れることで、多くの生徒がチャレンジし、２学期末現在では３年生の６０％を超える者が何らかの級位を取得している。検定試験へ向けての学習は取り組む内容が明確で努力の結果が成果となって表れやすく、このことが生徒にとっては大きな喜びであり、次のステップへの意欲付けにもつながる。つまり、検定試験への挑戦は基礎学力向上や家庭学習のよい習慣付けにも大変有効であるといえる。

②　「ＲＴ」における基礎学力向上のための学習について、生徒のアンケートを見ると、多くの生徒がこの時間が「自分のためになっている」と答えている。理由として「漢字や英単語が覚えられる」を第一にあげている。つまり、「ＲＴ」が学習のよい機会になっていることがわかる。また、定期テストでは好成績をあげることが難しい生徒もこのテストでは良い成績を残せ、学習への意欲付けにもなっている。

③　ラーニングルームという生徒のための学習室を設置することで、質問があるとき、あるいは時間があるときラーニングルームにいけば教えてもらえるという学習環境ができあがった。ラーニングルームの利用者数を見ても、生徒の学習意欲はラーニングルームを設置することで格段に向上した。

　長期休業中もラーニングルームを開放することで部活動単位で学習に利用したり、自主学習に利用したりと常にだれかが学習を進めている。質問日学習を設定することで長期休業中においても随時数名の教師が指導にあたっているが、質問日学習はやはり進路選択を控えた３年生の利用が多い。

２．今後の課題

来年度は研究推進の３年目となる年である。必修教科や選択教科における授業研究を中核に学力の向上をめざして引き続き取り組みたい。「学びのドラマ」の実現に向け、各教科で具体的な取組を実践し、授業の改善を図らなくてはならないと考える。今年度は生徒による授業評価も行ったが、来年度はさらによりよい授業評価、自己評価の在り方も研究し、授業改善＝学習改善につながる指導と評価の一体化をめざしたいと考えている。

また、３年目ということで、取組の成果も問われる。具体的な成果が示せるよう、数量的、かつ説得力のある検証の方法を構築していくことも行わなければならないと考えている。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

・習熟度診断テスト（１，２年生は２学期に実施、３年生は学期ごと実施）
・定期テスト（学期ごと実施）
・山口県中学校教育研究会教科部会による山口県共通テスト（数学・英語・理科）
・ＲＴにおける英単語、漢字読み書き確認テスト（ＲＴの時間に実施）
（まとめのテストは２学期末に実施）
・目標規準準拠テスト（ＣＲＴ）（１学期に実施、１年生は国語、数学
２年生は国語、数学、英語）

生徒の学力を把握し、指導に生かすために実施。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○学力向上フロンティアスクール事業推進協議会
・日　時　平成１５年５月２６日（月）
・場　所　山口県庁
・対　象　山口県フロンティアスクール担当者
・目　的　フロンティアスクール事業推進
「個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫」について実践発表

○中国個性化教育研究会夏季研修会
・日　時　平成１５年８月７日（木）
・場　所　山口県セミナーパーク
・対　象　小、中学校教員
「学力の原点を問い直す～子どものやる気を引き出す学習プラン～」というテーマでフロンティアスクールとしての実践発表
「学びの楽しさを創る」というテーマでのシンポジウム参加

○山口県高等学校初任者研修講座
・日　時　平成１５年１１月１４日（金）
・場　所　光市立島田中学校
・対　象　東部地区高等学校初任者
「特色ある学校教育活動」について実践発表

○管内公開授業発表会
・日　時　　平成１５年１１月２５日（火）
・場　所　　光市立島田中学校
・対　象　　管内外小中学校の教育関係者、保護者、地域の方々
（参加者約８０名）
＊福岡県三潴中学校、岡山県香和中学校からも参加

○周南管区学力向上フロンティア事業地区協議会
・日　時　　平成１６年1月２３日（金）
・場　所　　周南市立秋月中学校
・対　象　　周南地区フロンティアスクール関係者、保護者
「個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫」について実践発表

○他校からの訪問
・九州大学より　教授　中留武昭　先生
平成１５年１２月１２日（金）
「島田中学校のカリキュラム等」について
・熊本県　力合中学校より２名
平成１６年1月２９日（木）
「フロンティアスクールとしての取組」について
・熊本県　　花陵中学校より２名（予定）
平成１６年2月２５日（水）
授業参観（音楽）
「フロンティアスクールとしての取組」について

○島田中学校ＨＰにおいて学校の取組等をお知らせしている。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　☑１４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　□４～６学級
□７～９学級　☑１０～１２学級
□１３～１５学級　□１６学級以上

【指導体制】　☑少人数指導　☑Ｔ．Ｔによる指導
□その他

【研究教科】　□国語　□社会　☑数学　□理科
□外国語　□音楽　□美術　□技術・家庭
□保健体育　□その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑有　□無